

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な内容については定着してきている。
- ・ICT機器を活用した授業をすることで、友達と考えを共有したり、自らの進度に合わせて学習方法を考えたりする習慣が身に付いてきた。
- ・4年、5年の結果は目標値を超えており、これまでの取り組みの成果が数値に結びついている。

(2) 課題

- ・学年により定着度に偏りがある。
- ・6年生の「数と計算」の領域の正答率が目標値よりも低い。
- ・学年進行で、記述式の問題の正答率が低くなっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値を大きく上回っている。		
第5学年	目標値をやや上回っている。	目標値を上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	目標値をやや下回っている。	目標値を上回っている。 (第5学年時)	目標値を上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数の計算や図形、測定やデータの活用などについての基本的な力は身に付いている。	文章問題や、立式等についての説明（記述）をすることに課題が見られる。	今までの学習したことを生かして、課題を解決しようとする意識が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生は、わり算・計算のきまりについての理解に課題が見られる。 ・6年生は、数と計算や図形、データの活用などの領域に課題が見られる。	文章問題や、立式等についての説明（記述）をすることに課題が見られる。	学習したことや既習事項を活用し、生活に結び付けて考えたり、応用したりすることに課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・具体物を操作する活動を継続して取り入れていく。 ・時計や長さなどの学習では、普段でも意識的に児童と確認し、日常でも使えるようにする。 ・ドリルパーク等に継続的に取り組ませ、苦手な部分は10の合成や九九の確実な定着を図る。	・問題文を繰り返し読み、言葉の意味、分かっていること、知りたいことを、はっきりさせてから問題に取り組ませる。 ・説明する場面をつくり、自分の考えとの違いを見付けさせる。	・具体物やICT教育機器で問題場面を想起できるようにする。 ・対話の場面において、学び合い、伝え合い、分かる楽しさを味わわせる。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・半具体物を操作する活動を継続して取り入れる。 ・算数用語一つ一つを丁寧に扱い、説明の際に使えるようにする。 ・四則計算に継続的に取り組み、苦手な部分はドリルパーク等を用いたり、個別指導をしたりする。	・問題文を正確に読み取り、言葉の意味、分かっていること、知りたいことを明確にさせ、図や表に表してから立式させる。 ・問題を解決するための方法を話し合わせ、友達の考えの良いところや自分の考えと同じ部分を見付けさせる。	・具体物やICT教育機器で場面を想起し、解決の見通しがもてるようにする。 ・対話の場面を取り入れたたり、教え合う活動を取り入れたたりすることで、友達の考えを知る機会をつくる。 ・授業のまとめの場面で「学んだこと」「今後に生かすこと」の2点を振り返らせる。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・算数用語を使って説明する機会を意図的・計画的に設ける。 ・四則計算に継続的に取り組み、苦手な部分はドリルパーク等を用いたり、個別指導をしたりする。	・問題文を正確に読み取り、言葉の意味、分かっていること、知りたいことを明確にさせ、図や表に表してから立式させる。 ・分かりやすく自分の考えを説明できるようにさせ、友達との対話から、よりよい方法を見付けさせる。	・具体物やICT教育機器で場面を想起し、解決の見通しを複数もてるようにする。 ・対話の場面から、学び合い、考えを視覚化し、友達の考えと比較しながら多様な解き方を工夫する習慣をつける。 ・授業のまとめの場面で「学んだこと」「今後に生かすこと」の2点を振り返らせる。